



感染管理認定看護師
渡辺 祐飛さん

院内の感染管理を行う。手指衛生、防護具の着脱指導、感染症の種類や特徴に合わせた対策の立案・指導・評価などを行っている。地域の高齢者施設などを訪問し、研修講師や感染症発生時の指導を行う。



摂食・嚥下障害看護認定看護師
奥村 歳子さん

病気や障害、加齢によって口から食事を摂ることに問題を抱えた方の食支援を専門とする。院内では、口腔ケアについて看護スタッフの指導を行っている。



皮膚・排泄ケア認定看護師
高瀬 宏美さん

人工肛門や褥瘡（床ずれ）などを含む創傷・失禁ケアを専門的に行う。患者や家族、院内外の職員に、床ずれなどの創傷や傷つきやすい皮膚のスキンケア、排泄ケアに関わる指導・教育・相談を行っている。

「つながりを活かして支援やリーダー育成を」

病院長 今後の課題や目標は？

奥村 院内外で食支援のつながりを作りたい。例えば、地元の飲食店でも嚥下障害がある人が食べることができたら良いなど思っている。まちのアピールにもなると思うし、すごく楽しくなるのではと考えている。

*3 嚥下…食物などを飲みこみ、胃に送ること

渡辺 患者さんや職員にとって、より安全な病院になるよう、正しい知識の普及や感染対策を担う仲間を増やす活動を行っていききたい。また、今後新たな感染症に対応できるように地域でも感染対策の基礎知識をもった人やリーダーの育成を行っていききたい。

高瀬 寝たきりで退院し在宅介護となると、床ずれ、失禁手当は避けて通れない切実な問題だと思っている。訪問診療のつながりを活かし、タイムリーに相談・解決できると患者さんや訪問診療の方にとって良いのではないかと考えている。対医療者だけでなく介護者、医療の知識がない方に、2人の認定看護師とタッグを組み、出前講座で相談会やケアの実践などを行うことができれば良いと思う。

「多様な働き方があって面白い！」

病院長 看護師を目指す若者・後輩たちへの想いを！

高瀬 後輩の育成も認定看護師の役割のひとつだと思っている。3年目くらいになると方向性、目標を考える時期かなと思う。キャ

リアアップしたい気持ちの芽をつむことをしないように相談にのることができればと思う。認定看護師になるには、どうしたら良いかわからないこともあると思うので、アドバイスや、病院・行政の支援があることも教えたい。

奥村 ひとつの組織で専門資格を取って目標を定めてやっていくのもキャリアだが、働き方の多様化という面では看護師の免許をもって、いろいろな職種を兼任し働いている人もいる。いろいろな働き方や選択肢が看護師にもあり、面白い世界なんだということを紹介・発信することがキャリア支援になるのではないかと考えている。

「ぜひ活用してほしい」

病院長 資格をとるときの市や病院の支援はどうでしたか。

渡辺 市にも病院にも支援いただいて、病院に在籍のまま勉強することができ、経済面では負担を感じず、学習に集中させてもらったので有難かった。若い人たちにはぜひ活用してもらいたい。

市では、認定看護師の資格取得・更新の支援を行っています。

座談会の最後に 山岸病院長から



認定看護師は、若者のキャリア形成のロールモデルにもなる人材、それと同時に病院の中だけでなく地域に活動の場を広げる人材として、輝く存在なのだと思う。ぜひ今日話したことを実現していただきたい。